

地域教育文化研究科の教育目標及び3つのポリシーについて

【教育目標】

山形大学大学院の教育目標を踏まえ、地域教育文化研究科では、臨床心理学や造形芸術、音楽芸術及びスポーツ科学の各分野において、個々のスキルアップのみならず、実践的な問題解決能力を涵養し、文化的・精神的に豊かな地域社会の構築並びに社会全体の健全な発展向上に資する人材を育てることを目標としています。

【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

山形大学大学院の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、地域教育文化研究科では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。

- 1 高度な専門職従事者としての知識と技能
 - (1) 臨床心理学や造形芸術、音楽芸術及びスポーツ科学の各分野における学術上の高度な概念や原理を体系的に理解している。
 - (2) 臨床心理学や造形芸術、音楽芸術及びスポーツ科学の各分野における専門職従事者としての倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の精神を得ている。
 - (3) 臨床心理学や造形芸術、音楽芸術及びスポーツ科学の各分野において自身の持つ知識・技能を多角的に捉え、諸課題に対応することができる。

- 2 課題解決能力・新領域の開拓能力
 - (1) 現在の社会状況を理解し、臨床心理学や造形芸術、音楽芸術及びスポーツ科学の各分野において取り組むべき課題等の判断及び行動ができる。
 - (2) 地域課題の解決や地域貢献のために、臨床心理学や造形芸術、音楽芸術及びスポーツ科学の各分野における専門知識や技術を総合的に駆使することができる。
 - (3) 大学院で修得した専門知識や技能を、高度な専門職従事者としてそれぞれの領域において実践的に活かすことができる。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

大学院の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、地域教育文化研究科では、学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1 教育課程の編成・実施等

- (1) 高度な専門職従事者としての知識と技能を体得するために、各専攻の諸分野について高度な専門知識を修得するための講義・演習科目を置くとともに、総合的・実践的な研究方法を学ぶために、実習やフィールドワークを行う科目を置くなど体系的に構成されたカリキュラムを編成する。
- (2) 論文審査については、専門的かつ多面的な考察をするために、適切な助言・指導を行う。

2 教育方法

- (1) 生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく教育を展開する。
- (2) 自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、協働による参加型、対話型の学生主体の授業を拡充する。

3 教育評価

- (1) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生からの評価を組織的に行い、到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定する。
- (2) 良識ある市民に求められる知識と技能、さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

【入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

地域教育文化研究科は、臨床心理学専攻と文化創造専攻の2専攻から構成され、専門知識や技術・技能を育成するため、実習・演習を重視した教育方法を採用しています。専攻や分野を連携する授業を開設し、また山形県内の心理臨床関連施設や文化・スポーツ施設等と連携して、学生が事業の企画・運営などの補助業務に参加することを通じて実践的な課題解決能力を養うことができるカリキュラムを編成しています。

地域教育文化研究科は、臨床心理や芸術・スポーツの各分野において、高度な専門的知識や技術・技能を養うとともに、各分野において地域社会の健全な発展向上に寄与することができる専門的職業人や指導的人材を養成します。

また、地域教育文化研究科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・臨床心理や芸術・スポーツの各分野における高度な専門的知識と技能を身につけ、実践的な能力を高めたいという意欲と能力を持つ人
- ・各分野における高度な専門性を地域貢献に活かしたいという意欲と能力を持つ人

以上のような観点から各専攻では、次のような学生を求めています。

修士課程

(臨床心理学専攻)

臨床心理学専攻は、保健・医療、教育、福祉、司法・矯正、産業等の領域において、臨床心理学をはじめとする心理学の知識や諸技法を活かし、心理支援の確かな業務遂行能力を持つ高度な専門家(公認心理士、臨床心理士)を養成します。

また、臨床心理学専攻の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

- 心理職を強く志向し、心理支援の実践力を身に付けたいという意欲を持つ人
- 心理職に求められるコミュニケーション能力を持つ人
- 臨床心理学に関する専門的な知識と技術を身につけたいという意欲を持ち、かつ、努力し続けることができる人
- 専門性を活かしながら社会的な役割を担うことを目指し、その実現のために努力することができる人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 推薦入試(面接、出願書類を総合して判定)
- (2) 一般入試(筆記試験、面接、出願書類を総合して判定)
- (3) 社会人入試(筆記試験、面接、出願書類を総合して判定)
- (4) 外国人留学生入試(筆記試験、面接、出願書類を総合して判定)

(文化創造専攻)

文化創造専攻には、音楽芸術、造形芸術、スポーツ科学の3分野を置き、それぞれの領域において、文化の活性化に寄与することができる高度な専門的職業人を養成します。

音楽芸術分野では、学部で修得した音楽芸術に関する基礎知識や技能等を基に、個々に応じた授業を通し、更に高度で専門的な技能や指導力の涵養を図り、専門分野で地域における指導的な役割を担う人材を育成します。また、オペラ、室内楽、オーケストラを教育の中心に据え、演奏会等の企画・運営・実践を通して音楽事業のコーディネート能力とマネジメント能力を涵養し、地域や社会の芸術文化の発展・振興に貢献できる人材を養成します。

造形芸術分野では、学部で修得した造形芸術に関する基礎知識や技能等を基に、絵画、彫刻、工芸、デザイン、芸術学等の各専門領域において更に高度な専門的スキルと指導力を備えた人材を養成します。また、文化政策やアートマネジメントに関する実践的な能力を涵養し、公的な文化施設・団体をはじめ一般企業などの文化事業において、企画・運営・実践・指導を通して地域や社会の芸術文化の発展・振興に貢献できる人材を養成します。

スポーツ科学分野では、各種スポーツの技術や先端理論等を修得し、競技力向上の指導者を目指す人材を養成します。また、スポーツ活動を企画する能力を涵養すると同時に、地域社会や行政、並びに各種スポーツ団体等と有機的に連携し協働できるスポーツ・コーディネート能力とマネジメント能力を涵養し、生涯スポーツ社会の構築を積極的に推進することのできる人材を養成します。

また、文化創造専攻では、芸術文化・スポーツの分野で活躍できる高度な人材を養成するという目的に必要な資質を有する、次のような人を求めています。

◆求める学生像

- 大学の学部で音楽芸術・造形芸術・スポーツ科学の基礎的知識を修め、音楽芸術や造形芸術及びスポーツ科学の各分野に広い視野を持ち、高度な専門的知識や技術の修得を目指す意欲と能力を持つ人

◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験、面接、実技試験（音楽芸術分野のみ）、出願書類を総合して判定）
- (2) 社会人入試（筆記試験、面接、実技試験（音楽芸術分野のみ）、出願書類を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（筆記試験、面接、実技試験（音楽芸術分野のみ）、出願書類を総合して判定）